

令和元年度シカ管理検討委員会会議録

令和元年 8 月 2 日開催

- 【事務局】 1 開 会
- 【事務局】 2 あいさつ
- 【事務局】 3 議 事
- 議 題 (1) 平成 30 年度シカ管理対策の実施状況について
(2) 平成 30 年度指定管理鳥獣捕獲等事業評価報告について
(3) 令和元年度シカ管理対策について
(4) その他
- 事務局から説明 (議題 (1) 及び (2))
- 【委員長】 ありがとうございます。まず、平成 30 年度の実施状況について、皆様御質問
ございますか。
- 【奥寺委員】 シカの捕獲頭数の推移についてですが、平成 29 年度と 30 年度を比較すると、指
定管理と狩猟が大幅に減っておりますが、これは、シカの生息数が減少している
ことが考えられるのでしょうか。単純に捕獲数だけでは判断できないとは思いま
すが、確認させていただければと思います。
- 【委員長】 これは、平成 29 年度に非常に積雪が多く、そのことが影響していると聞いてお
ります。何か補足はありますか。
- 【菅野委員】 先ほど、委員長がおっしゃった通りで、去年の冬は積雪量が少なく、結果的に標
高の高い場所にいるシカが、下に降りてきませんでした。積雪が少なかったため、
わなによる捕獲数が増加したものの、銃による捕獲が伸び悩み、結果的に全体で
1,000 頭以上減少したと考えております。
- 【委員長】 ありがとうございます。私からも一つよろしいでしょうか。5 ページの農業被
害の推移について、作目ごとに増減の推移がありますが、飼料作物だけが比較的
順調に減っております。この理由について考えられることはありますか。
- 【事務局】 きちんと防除対策が取られているために減少しているのではないかと考えられ
るのですが、一部では、作付の中止によりこれまで被害として報告されてきたも
のが報告されなくなったということも考えられます。
- 【事務局】 被害の要因についての情報収集はしておりますが、やはり電気柵の設置が進ん
でいることが大きな理由として考えられます。
- 【委員長】 ありがとうございます。他に何かございますか。ないようでしたら、平成 30
年度の事業評価報告について、御意見、御質問はございますか。
- 【藤澤委員】 8 ページの巻き狩りの部分で、参加人数が減っているところですが、実際には、
捕獲がないために届けてない場合もあると思います。参加者数については、1 頭
でも捕獲があれば、報告をするのですが、そうでない場合には人数を報告しない
場合もありますので、その点も御理解頂ければと思います。
- 【事務局】 ありがとうございます。その点につきましても、詳細なデータを集めるには、
捕獲ができなかった場合のデータの収集も重要だとは思いますが、その分、狩猟
者や猟友会の負担が増えることも事実だと思いますので、この部分についても改
めて協議して、できるところから改善をしていければと思っております。

- 【委員 長】 1つ教えてください。7ページの銃猟とわな猟の数字についてです。この数字を見る限り、わなの方が何か努力量が増えているように見えるのですが、この傾向は今後も続くのでしょうか。それから、狩猟の現場から見て、それが望ましいことなのかどうか、という点についても御意見をお聞きしたいと思います。
- 【菅野委員】 わなの場合は、設置をした場合には、毎日見回りをする必要があります。これが捕獲努力量としてカウントされているものと思います。錯誤捕獲の問題や、わなにかかったシカがクマなどの他の動物に食べられるケースもあるやに聞いていることから、わな設置後の見回りは必須となります。また、わな猟については銃猟と比較し、効率は落ちると思います。
- 【委員 長】 わなの利用については、今後増えていきそうでしょうか。
- 【菅野委員】 先ほど、狩猟免許取得者数についての報告がありましたが、以前に比べ、わな猟免許取得者の割合が増加しております。最近では、わなでも捕獲ができるということで、自分の田んぼや畑は自分で守る、という人が増えており、それに伴い、わな猟の免許を取得する人が増えてきました。
- 【委員 長】 ありがとうございます。その他いかがですか。
- 【宇野委員】 5ページの評価についてです。実施区域を今、生息密度の高い五葉山地域を中心とし、侵入初期段階を含めて捕獲を行っているとのことで、改善点が早池峰山周辺地域での捕獲を強化する必要があるとのことでした。目撃はあるけど獲れていないような場所について、もう少し積極的に捕獲できないのかということについて、県としての御意見を頂ければと思います。
- 【事務局】 目撃はあるけれども、獲れてない、そういった箇所に対して、県としてどのような方針で対応していくかということについて、本日この場でお話しするのは難しい状況ですが、目撃と捕獲による分析方法などの活用も今後考えていければと思っております。
- 【宇野委員】 捕獲と目撃の関係性を示す場合は、目撃はあるが捕獲が進んでいない区域を濃く色塗りした方が分かりやすいかと思いますので、御検討いただければと思います。
- 【委員 長】 その他ございますか。ないようですので、議題（3）の令和元年度シカ管理対策について、事務局から説明をお願いします。
- 【事務局】 （議題（3）について説明。）
- 【委員 長】 どうもありがとうございました。ただいまの内容に関して、御意見、御質問等ございますか。特に今年度の捕獲目標について、私個人の意見としては、過去最大の目標になるという点は、非常に良いと思います。捕獲する側から見て、これが現実的な数字であるかについてはいかがでしょうか。
- 【菅野委員】 なるべくこの数字をクリアするように努力したいと思います。積雪の多かった平成29年度の数字をそのまま採用されるのは大変ですが、最大値と最小値から出した数字であれば、何とかこれに近づけるように努力したいと思います。
- 【委員 長】 その他ございますか。
- 【宇野委員】 早池峰山周辺における生息状況調査ということで、東北森林管理局がシカにGPSをつけて調査し、越冬地がいくつか分かってきておりますので、上手く連携し、囲いわなの設置など、越冬地において、もう一歩進んだ何かが出来ればと思いますが、いかがでしょうか。

- 【事務局】 東北森林管理局の調査事業につきましては、当課でも委員として参加しておりますし、調査内容についてもお聞きしておりますので、東北森林管理局と連絡等を取りながら、少しでも、高山植物に影響を及ぼすシカを捕獲できるように努力していきたいと思います。また、東北森林管理局とは、我々の連絡組織の中でも、常に情報交換をしながら、防鹿柵の設置を進めておりますし、今年度新たに取り組む早池峰地域での捕獲についても現在調整を進めているところであり、その際にはシカのGPS調査の結果を活用するなどして対策を進めてまいりたいと思います。
- 【委員長】 県の環境保健研究センターが行っている県独自の個体数推計について、どのような方法で進めているのか、差しつかえのない範囲で教えていただければと思います。
- 【事務局】 個体数推定については、追い出し調査と糞塊調査結果を用い、ハーベストベースドモデルにより推計を行うものです。進捗状況については、システムプロセスと観察プロセス等のベースとなるモデルの構築を行ったところですが、事前分布やセンサリング等の推定値の制限幅の設定等が課題となっているところです。
- 【委員長】 県の中をいくつかに分けて調査しているものでしょうか。
- 【事務局】 推定に際しては、五葉山周辺の9メッシュ分、岩手県南部、それ以外の地域に分け、県内全体で55箇所において糞塊調査を行っております。
- 【藤澤委員】 それから、1ページ、4の捕獲の担い手の確保と育成についてですが、先月、自然保護課主催で捕獲の担い手確保・育成のための講習会がありました。私も協力した1人ですが、大変良い講習会であったと思います。実際の狩猟について紹介する座学を行い、銃などの猟具に触れる機会を設け、講師たちによる射撃を見学いただきました。しかし、毎年、狩猟免許試験で約300人が合格しているものの、実際に猟友会に入って狩猟を行う方は約100人ほどです。ですから、狩猟免許に合格した方々のうち、実際の狩猟に参加していない方々を誘導していく対策を考えていただければと思います。
- 【事務局】 担い手研修会は非常に好評だということですので、今後もこのような取組を継続して担い手の確保に努めてまいりたいと思いますし、市町村においても狩猟者確保のための補助等の対策がとられておりますので、市町村とも連携を図っていききたいと思います。また、捕獲の担い手スキルアップ研修会ということで、狩猟免許を取得して間もない初心者の方々向けの研修会を開催しており、このような取組も継続していき、新規の狩猟免許取得だけではなくて取得後のフォローについても、県としても積極的に図ってまいりたいと思います。
- 【宇野委員】 先ほどの担い手確保の件についてですが、免許を取っても実猟になかなか行けずに経験が追いつかず、免状だけ所持している状態にある方が多いと感じています。一方、技術を持つ人たちが高齢化していくため、10年後20年後に、免許はあるが実際に猟ができない方が出てくる可能性があります。そのため、新潟県などでは、市町村が狩猟免許の取得者を何名か雇用し、ベテランの狩猟者の技術を取得させる取組が行われていると聞いています。

- 【事務局】 担い手の確保という意味では、県の職員の中でも、免許を取得する方もおりますし、市町村の職員が受験して、捕獲を行うために免許取得しているという実状もございますので、このようなことも大事にしながら、担い手の確保に向けて、努力してまいりたいと思います。
- 【菅野委員】 現役の狩猟者が指導者として、若い狩猟者を指導できるような体制を市町村が取っていただければと思います。市町村の中には、指導者にふさわしい人を臨時雇用し、新たに免許を取得した人に対し、狩猟のノウハウを教える体制を取っているところがあると聞いていますが、そのような事例について御存知ありませんか。
- 【宇野委員】 聞いた話ですと、新潟の方で事例があるようです。3人ほどを雇用し、技術を学んでもらう仕組みのようです。実際この話は、もともとは九州のわなのメーカーが2、3週間泊り込んでわなの実習を受けて、技術を取得する取組があり、同様の取組を新潟県でも始めたようです。その予算は県か市町村が措置し、狩猟者を雇用しながら、技術を習得して市町村に還元する仕組みです。
- 【藤澤委員】 岩手県猟友会では、先日、50歳以上で、あまり狩猟経験のない方、技術に不安があると感じている方30名程度を対象とした研修会を行い、技術の向上をお手伝いしているところです。
- 【委員長】 どうもありがとうございます。他にいかがでしょうか。今のところ、特にこの計画に対して修正意見は出ませんでした。これ以上なければ、今年度のシカ対策の計画として、説明のあったとおりでよろしいでしょうか。
- 【委員一同】 異議なし。
- 【委員長】 私から捕獲目標について提案があります。目標頭数については、全県の数字となっておりますが、岩手県では、県内を3つの地域に分けてシカ管理を考えているため、この3つの地域ごとに目標頭数を設けてはどうかと考えております。特に、奥羽山地は、県の東側の地域とは少し性質が異なると思います。というのも、シカは侵入していますが、侵入している数が少ないことと、それから、非常に価値の高い自然植生が存在することです。この自然植生を守る必要があります。新たな植生被害を発生させないこと、それから、植生を守るという点が特徴的です。3つの地域をそれぞれ別に見ていくということで、捕獲目標を地域別に決めてはどうかと考えます。すぐには無理だとしても、今後検討していただければと思います。
- 【事務局】 ありがとうございます。我々も今後のシカ対策をどのように進めていくかということを考え、関係者が捕獲に取り組む上で、目標としやすいものが望ましいと考えております。そのため、環境保健研究センターとともに、どのような形が一番望ましいかということについて、検討しているところですが、なかなか実効性がある方法について、御説明できる状況にはないというところです。先ほどの御意見を踏まえ、できるだけ皆様方の御意向に沿った形で提示できるよう、もう少し研究のお時間をいただければと思います。
- 【委員長】 よろしくお願いいたします。それでは、他に特になければ、議事を事務局にお返しします。

【事務局】 はい。堀野委員長、議事進行ありがとうございました。それでは以上をもちまして、令和元年度シカ管理検討委員会の一切を終了させていただきます。本日は暑い中、長時間に渡りありがとうございました。